

将来の森林づくりを担う人材育成への貢献
～森林・林業教育支援プログラムの取組～

北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
一般職員 片山 洸彰
森林整備官 竹部 修二

1 課題を取り上げた背景

戦後、造成された人工林が本格的な利用期を迎え、主伐・造林等の事業量の増大が見込まれる中、林業が抱える課題の一つとして、林業従事者の担い手不足が挙げられます。将来の森林づくりを担う人材の育成に寄与するため、林野庁は平成27年3月に「森林・林業教育支援プログラム」を企画・提案しました。森林・林業教育支援プログラム（以下、プログラム）は林業高校の教職員及び生徒を対象として、技術・知識の習得等への支援を行うことを目的に森林管理局や森林管理署が実習や講義を実施するものです。当署では平成27年度より北海道帯広農業高等学校（森林科学科）と連携しプログラムに取り組んでいます。

2 取組の経過

当署では、プログラムの中の「林業高校の希望により対応するプログラム」を実施しています。平成27年5月に北海道帯広農業高等学校の教職員よりプログラムを活用した生徒の業務体験受け入れの依頼がありました。これを踏まえ、同校と連携して、プログラムの一環として実習生を受け入れて実施することとなりました。今年度は、3年目の取り組みとなります。

3 実行結果

実習では GPS 測量講習、高性能林業機械講習、野鼠調査等を実施しました。平成29年度はこれに加え、ドローン講習も実施しました。生徒たちからは「GPS 測量は初めて行った」、「高性能林業機械の現場は初めて見

た」といった、学校の実習にはない室外授業が印象に残ったという感想が多く出されました。

実習に参加した生徒は2年間で10名（3年間では14名）でしたが、当署としてはもっと多くの意見を聞きたいと考えました。そこで平成28年12月に帯広農業高等学校を訪れ、林業に対する思いや進路などについて森林科学科の39名の生徒から話を聞きました。高校生の回答から、高校進学時にはほとんどの生徒が林業に興味を持っていたわけではなく、学校の授業や実習で林業について学ぶうちに興味を持つようになった生徒がいることがわかりました。



GPS 測量の結果をパソコンで地図上に作図

4 考察

実習を通して、プログラムにどのような意義があるのか、考察を行いました。プログラムは人材育成や新規就業者の確保にどのように貢献できるのかということについて、生徒から求められる多様な実習フィールドを提供できる、実践的な森林・林業技術を体験することができる、さらに林業関係への就職の動機付けを図ることができる、ということが挙げられます。そして、今後どのような実習を行えばよいのか、ということについては、学校の授業では経験できない実習を行うことで、生徒にとってよりインパクトのある内容にできると考えます。



高性能林業機械の作業現場見学

取り組みを始めて今年でまだ3年目ですが、多くの生徒が実習に参加し、林業により興味を持ってもらい、知識を得てもらえるよう、さらに内容を検討していきたいと考えています。